



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

AAP 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2013.4.26

No. 36 - 36

航空安全シンポジウム in 沖縄 実施報告

2013年2月12日、日乗連 AAP(Accident Analysis and Prevention：事故対策)委員会は、航空安全推進連絡会議沖縄支部との共催により定例の航空安全シンポジウムを沖縄県那覇市産業支援センターにて開催しました。

今回のシンポジウムでは、近年、世界で主流となってきている **Fatigue Risk Management System** について、HUPER 委員会より紹介しました。疲労を「安全運航に影響を与えるハザード（危険な状態を生じる可能性）」として捉え、体系的に疲労のハザードを回避、または管理するという考え方です。抽象的なものである疲労を客観化、データ化し、そして科学的見地を導入した上で SMS に組み込んだ疲労の管理をしていく必要性を訴えました。また、現状の日本では ICAO で規定されている「疲労管理」そのものがまだ航空法に規定されていないという問題点を説いています。

また、後半では AAP 委員会より『再発防止を目的とした事故調査』のあり方について紹介しました。事故調査の目的は「再発防止」であり、それ以外の目的は存在しません。ICAO(国際民間航空機構)条約もそのように規定しています。しかし日本における事故調査は、警察が「刑事捜査」の証拠として物品を押収し、本来、事故調査機関として独立して「事故調査」をすべき運輸安全委員会に嘱託鑑定をさせることができる、「覚書」が存在するという問題点があります。AAP 委員会は今後も「刑事捜査」と「事故調査」を分離する「再発防止のための事故調査」を追求していきます。



今回のシンポジウムへの参加者総数は55名、乗員以外にも管制官、マスコミからの参加多数となり、大変有意義なものとなりました。

— 講演内容 —

『Fatigue Risk Management System』

日乗連 HUPER 委員会 満下 善紀

『再発防止のための事故調査』

日乗連 AAP 委員会 中川 雅貴

日乗連 AAP 委員会では引き続き安全に関する取り組みを推進してゆきます

